

羊は野原でかう動物です。せまい小屋の中にとじこめられたままでは病気になる
つてしまうのはあたりまえです。羊たちにひふ病や肺炎はいえんが広がり、つぎつぎにた
おれてしまい、生き残ったのはたった四ひきでした。羊たちもかわいそうでした
が、伝右衛門もがっかりしました。三十五ひきの羊を買って須賀川につれてくる
のに、たくさんのお金がかかりました。そのうえ、広々とした牧場で羊をかうゆ
めが消えてしまったのです。

しかし、伝右衛門は、そんなことではくじけません。次つぎはさとうきびからさと
うをとる仕事です。さとう大根もさとうきびも、昔は日本にありませんでした。

明治十二年、伝右衛門は、津田つだ仙せんから中国のさとうきびを分けてもらいました。
こんども半之助が伝右衛門にたのまれて山形県に行き、津田仙のおでしさんにさ
とうきびのつくりかたを習ってきました。

伝右衛門は、馬のほねをやいて粉にした肥料や、いろいろの肥料を使ったので、
さとうきびはたくさんどれました。さとうは、さとうきびのくきをおしつぶして